成隣だより

平成２９年1月３１日
第　１０　号
昭島市立成隣小学校
校長　加賀田　真理

「ハンカチ持ってますか？」―心をとめる瞬間―

副校長　眞砂野　裕

「ハンカチ、ちり紙持った？」私事で恐縮ですが、小学生の頃、登校しようとする私に母が毎朝かけてくれた言葉です。正直、高学年になるにつれ煩わしいと感じたこの言葉は、「行ってきます。」「行ってらっしゃい。」という定番の会話とととともに、私に日常的な安心感を与えてくれていたのだと、今になって気付かされます。

大人になり、この母からの声かけは私自身の内なる声となっていきます。朝の身支度をする際、「あれ、ハンカチは・・。」と一瞬心をとめることができるのです。記憶にはありませんが、小学生の頃も同じだったのかもしれません。母の声に助けられながら、ハンカチを持ったか？と自問自答する一瞬は、「心をとめる瞬間」でもありました。この「心をとめる瞬間」が、子供の頃から習慣になっていることがとても大切だと思うのです。

毎月の避難訓練の際、本校では毎回のように「ハンカチを持っていますか？」と全校児童に問いかけます。もちろん、火災による有毒ガスを吸わないための備えとしての問いかけですが、この「ハンカチを持ったかどうか？」と心をとめる瞬間を、防災意識を高めるための日常的な機会ともしたいのです。

心をとめる瞬間を習慣にすることは、防災意識の向上だけでなく、事故防止や防犯意識の向上、あるいはよりよい人間関係の構築にも重要なことです。

例えば　○友達と自転車で遊びに行き、楽しくなってついスピードを出し過ぎたとき
○マンションのエレベーターで、見慣れない大人が先に乗っているとき
○自分はふざけているつもりで、相手の失敗をからかおうとしたとき

こんなときに、ほんの少し心をとめてみる。その一瞬が、自分や友達の心身の安全を守るのです。

また、これからの時代はこれまで以上に「主体的な学び」「対話的な学び」そして「深い学び」が必要とされてきます。こうした学びを支えていくのも、まず「自分に何ができるだろう、必要なことは何だろう。」「相手はどう思っているのだろう。」「もっとよい方法はないだろうか。」そう立ち止まって考える（心をとめる）ことが土台となるのではないでしょうか。そして、この心の在り方、は一朝一夕で身に付くものではなく、日々の生活習慣から体に染みついていくものだと思うのです。これには、ご家庭の協力が不可欠です。

「心をとめる瞬間」を習慣にする・・・まずは、１枚のハンカチを持つことから始めてみませんか。

心をとめる